

1 おとの条件とは？(p.2~5)

＜授業での活用例＞

青年期の自立について考える際に活用することが考えられる。おとなとしてさまざまな権利行使することが認められるのに伴い、責任も生じることを理解させる。取り組む学年によっては、2022年から18歳成人の対象となる人もいるため、当事者としての意識を持つことを目標としたい。

＜補足解説＞

●「何ができるば～『おとな』だと思う？」の補足

ソニー生命保険株式会社が実施した「中高生が思い描く将来についての意識調査2017」では、中高生に、「どのようにすれば『自立した大人』といえると思うか」と質問したところ、以下のような結果が出た。

中学生（対象：200人）	
働き始めたら	57.5%
一人暮らしを始めたら	42.0%
こづかいや仕送りを貰わなくなったら	27.0%
結婚したら	12.0%
18歳（投票できる年齢）になったら	10.5%
20歳になったら	10.0%
自分の子どもが誕生したら	6.5%
その他	3.5%
わからない	5.0%

高校生（対象：800人）	
働き始めたら	60.8%
一人暮らしを始めたら	37.4%
こづかいや仕送りを貰わなくなったら	32.6%
結婚したら	16.4%
20歳になったら	11.9%
自分の子どもが誕生したら	11.6%
18歳（投票できる年齢）になったら	5.4%
その他	3.5%
わからない	6.3%

上の結果を見ると、中学生・高校生とともに、就職、一人暮らし、経済的自立、結婚を基準に考える生徒が多いことがわかる。一方で、おとなになる年齢への意識について、高校生では「18歳」からと考える割合が少ない。ドリルp.2の質問について生徒たちに取り組ませ、他の生徒と結果を見せ合った後で、教員から、参考情報として提示しても良い。

●Q1の補足

①「成年」と「成人」の違い

- ・成年…人が完全な行為能力を有するとみなされる年齢。
 - ・成人…心身が発達して一人前になった人。成年に達した人間。「成人する」は、「子供が成長して大人になること」を指す。
- (ともに小学館「デジタル大辞泉」参照)

②明治時代以前の「おとな」の扱いはどうだったか

【飛鳥時代】

大宝律令で、21歳以上60歳以下の男子を正丁（せいてい）（庸・調・雜徭・兵役を負担する者）とした。

【奈良時代以降】

元服の習慣が生まれた。男子は元服によって社会的に成人の資格を得て、一人前になると考えられていた。元服の年齢は、時代や身分階級によって異なっていた。

【江戸時代】

武家では、男女が以下のような儀式をした。

- ・男子…15歳で元服。若衆鬚（わかしゅまげ）から前髪を剃って大人の仲間入りをした。
- ・女子…13歳または初潮を迎えた時、髪上げの儀式をした。

③今の何歳が2022年4月に成人になるのか

2019年度 学年（年齢）	2022年度 年齢
高校2年生（満17歳）	満20歳
高校1年生（満16歳）	満19歳
中学3年生（満15歳）	満18歳

生徒には、高校在学中に成人となる人もいることを理解させたい。なお、現在問題になっているのが、「18歳成人となる改正民法施行後、成人式をどうするか」ということである。2023年1月の成人式では、上記の18・19・20歳になった人が全て対象、ということになるが、その時期に大学等の受験が多く行われ、参加できない人が多く出る可能性がある。また、高校在学中の場合、経済的な理由などから制服で参加する人も多いと予想され、呉服業界への影響も懸念されている。そのため、民法改正後も、成人式を20歳を対象に実施することを複数の自治体が発表している。